

# 第2回 門真市水道事業経営審議会 参考資料集

平成28年8月9日

門真市上下水道局

## 目 次

参考資料①	業務指標の比較について .....	1-1 ~ 1-7
参考資料②	業務指標の推移 .....	2-1 ~ 2-3
参考資料③	貯水槽水道とは .....	3-1
参考資料④	管路耐震化率の詳細 .....	4-1
参考資料⑤	経営指標の推移 .....	5-1 ~ 5-4
参考資料⑥	事業費用構成 .....	6-1

参考資料① 業務指標の比較について

## 業務指標の比較について

コード	項目	単位	門真市	類似団体 平均(府)	類似団体 平均(全国)	望ましい 方向性	評価	備考
1001	水源利用率	%	49.5	59.5	66.4	-	△	水源の効率性を表している。
1002	水源余裕率	%	77.9	53.7	36.6	-	△	水源のゆとり度を表している。
1003	原水有効利用率	%	95.4	95.3	95.3	↑	○	取水した原水に対して有効に使われた水量割合を表している。
1004	自己保有水源率	%	-	28.7	16.8	-	-	水源運用の自由度を表している。
1005	取水量1m <sup>3</sup> 当たり水源保全投資額	円/m <sup>3</sup>	-	20	-	-	-	水源保全への投資に対する割合を表している。
1101	原水水質監視度	項目	0	40	-	↑	-	原水監視の取組状況について表している。
1102	水質検査箇所密度	箇所/100km <sup>2</sup>	58.3	31.5	-	↑	○	給水区域単位面積当たりの水質検査箇所の割合を表している。
1103	連続自動水質監視度	台/(1,000m <sup>3</sup> /日)	0.177	0.110	-	↑	○	給水区域単位面積当たりの自動水質監視箇所の割合を表している。
1104	水質基準不適合率	%	0.0	0.0	-	↓ ○	○	水質基準値に対する不適合割合を表している。
1105	カビ臭から見たおいしい水達成率	%	100	100	83	100 ↑	○	水質基準を満たした上で、カビ臭から見たおいしい水の達成度を表している。
1106	塩素臭から見たおいしい水達成率	%	0	43	42	↑	×	水質基準を満たした上で、塩素臭から見たおいしい水の達成度を表している。
1107	総トリハロメタン濃度水質基準比	%	40	33	35	↓	○	水質基準以内で、より良質な水を給水していることを表している。
1108	有機物(TOC)濃度水質基準比	%	30	30	33	↓	○	水質基準を超えて、より良質な水を給水していることを表している。
1109	農薬濃度水質管理目標比	%	-	0.0	-	↓	-	「水質検査計画」と「水質管理目標設定項目」で定められた手順で測定した数値の割合を表している。
1110	重金属濃度水質基準比	%	0	2	8	↓	○	水質基準項目のうち、6種類による測定濃度の割合を表している。
1111	無機物質濃度水質基準比	%	13	11	14	↓	○	水質基準項目で定めた、無機物質6種類による測定濃度の割合を表している。
1112	有機物質濃度水質基準比	%	5	4	17	↓	○	水質基準項目で定めた、有機物質4種類による測定濃度の割合を表している。
1113	有機塩素化学物質濃度水質基準比	%	-	0	8	↓	-	水質基準項目7種類と水質管理目標設定項目2種類による測定濃度の割合を表している。
1114	消毒副生成物濃度水質基準比	%	10	7	11	↓	○	代表的な消毒副生成物5種類による測定濃度の割合を表している。
1115	直結給水率	%	70.9	81.2	2.9	↑	○	水質管理の信頼性確保に対する取組み度合いや、良質な水を供給するサービスを表している。
1116	活性炭投入率	%	-	13.3	-	↓	-	源水中の臭いを低減するため、浄水場で活性炭を投入した日数の割合を表している。
1117	鉛製給水管率	%	0.0	6.0	3.6	↓ ○	○	良質な給水をするため、現在は使用していない鉛製給水管の残存率を表している。

## 業務指標の比較について

コード	項目	単位	門真市	類似団体 平均(府)	類似団体 平均(全国)	望ましい 方向性	評価	備考
2001	給水人口一人当たり貯留飲料水量	L/人	71	215	142	↑	×	非常時に一人当たり何リットルの飲料水を確保しているかを表している。
2002	給水人口一人当たり配水量	L/日/人	313	311	320	↑	○	節水型消費パターンの促進の割合を表している。
2003	浄水予備力確保率	%	—	22.4	22.3	-	—	給水に対する安定性および災害、事故等に対する危機対応性を表している。
2004	配水池貯留能力	日	0.46	1.15	0.86	↑	×	給水に対する安定性および災害、事故等に対する危機対応性を表している。
2005	給水制限数	日	0	0	0	↓ 0	○	給水サービスの安定性を表している。
2006	普及率	%	100.0	100.0	99.6	100 ↑	○	給水サービスを受けている人の割合を表している。
2007	配水管延長密度	km/km <sup>2</sup>	18.7	16.6	14.0	↑	○	給水サービスをお客様に提供できる割合を表している。
2008	水道メータ密度	個/km	226	144	117	↑	○	給水サービスの効率性を表している。
2101	経年化浄水施設率	%	—	3	1	↓	—	法定耐用年数を超過している水道施設の割合で、老朽化の度合いを表している。
2102	経年化設備率	%	73.7	46.7	44.3	↓	×	法定耐用年数を超過している水道施設の割合で、老朽化の度合いを表している。
2103	経年化管路率	%	37.9	23.1	11.8	↓	×	法定耐用年数を超過している水道施設の割合で、老朽化の度合いを表している。
2104	管路の更新率	%	0.98	0.87	0.87	↑	×	管路の信頼性確保のため、1年間で更新された管路延長の割合を表している。
2105	管路の更生率	%	0.00	0.00	—	-	○	既設管路の信頼性確保のため、1年間に実施された内面補修等の割合を表している。
2106	バルブの更新率	%	1.60	1.15	1.07	↑	○	管路の配水制御上の信頼性確保のため、1年間で更新されたバルブ数の割合を表している。
2107	管路の新設率	%	0.09	0.32	0.56	-	○	未普及地区の解消や管路整備の割合を表している。
2201	水源の水質事故数	件	0.0	10.4	0.0	↓ 0	○	給水サービスの安定性を表している。
2202	幹線管路の事故割合	件/100km	0.0	2.2	0.5	↓ 0	○	特に重要度の高い管路施設の健全性を表している。
2203	事故時配水量率	%	65.0	56.2	71.5	↑	○	最大浄水場が24時間停止した場合に配水できる水量の割合で、給水サービスの安定性を表している。
2204	事故時給水人口率	%	65.0	29.2	39.5	↓	△	最大浄水場が24時間停止した場合に影響を受ける人口の割合で、給水サービスの安定性を表している。
2205	給水拠点密度	箇所/100km <sup>2</sup>	8.3	42.8	92.9	↑	×	災害時の給水拠点割合で、緊急時の利用しやすさや危機対応性を表している。
2206	系統間の原水融通率	%	—	0.0	—	↑	—	給水サービスの安定性を表している。
2207	浄水施設耐震率	%	—	12.1	10.4	100 ↑	—	浄水施設の耐震率で、地震災害に対する安定性を表している。

## 業務指標の比較について

コード	項目	単位	門真市	類似団体 平均(府)	類似団体 平均(全国)	望ましい 方向性	評価	備 考
2208	ポンプ所耐震施設率	%	70.3	51.6	19.4	100 ↑	×	ポンプ設備を設置している水道施設の耐震率で、地震災害に対する安全性を表している。
2209	配水池耐震施設率	%	31.1	59.3	57.3	100 ↑	×	配水池等の耐震率で、地震災害に対する安全性を表している。
2210	管路の耐震化率	%	17.9	18.3	12.4	100 ↑	×	管路の耐震率で、地震災害に対する安全性を表している。
2211	薬品備蓄日数	日	—	66.3	24.7	↑	—	浄水場における水処理用薬品の備蓄日数で、災害、事故等に対する給水の安定性、危機対応性を表している。
2212	燃料備蓄日数	日	0.7	0.6	68.4	↑	△	自家発電設備の燃料の備蓄日数で、災害、事故等に対する給水の安定性、危機対応性を表している。
2213	給水車保有度	台/1,000人	0.01	0.01	0.01	↑	×	災害、事故等に対する給水の安定性、危機対応性を表している。
2214	可搬ポリタンク・ポリパック保有度	個/1,000人	102.6	135.8	—	↑	△	災害、事故等に対する給水の安定性、危機対応性を表している。
2215	車載用の給水タンク保有度	m <sup>3</sup> /1,000人	0.02	0.08	0.11	↑	△	災害、事故等に対する給水の安定性、危機対応性を表している。
2216	自家用発電設備容量率	%	19.6	52.8	62.3	↑	△	災害、事故等に対する給水の安定性、危機対応性を表している。
2217	警報付施設率	%	50.0	66.2	—	↑	△	水道施設の安全確保に対する危機対応性を表している。
2218	給水装置の凍結発生率	件/1,000件	0	0	—	↓	○	給水装置の凍結に対する修理件数の割合で、水道事業を取り巻く地域性を表している。
3001	営業収支比率	%	123.4	105.9	108.3	↑	○	営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを表している。
3002	経常収支比率	%	124.9	119.7	107.2	↑	○	経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを表している。
3003	総収支比率	%	122.9	113.5	107.1	↑	○	総費用が総収益によってどの程度賄われているかを表している。
3004	累積欠損金比率	%	0.0	0.0	1.4	↓ 0	○	経営状況の健全性を示し、経営の悪化の度合いを表している。
3005	繰入金比率（収益的収支分）	%	0.1	0.6	0.1	↓	○	独立採算制を基本とする水道事業の他会計への依存度を表している。
3006	繰入金比率（資本的収入分）	%	5.7	9.6	31.7	↓	○	独立採算制を基本とする水道事業の他会計への依存度を表している。
3007	職員一人当たり給水収益	千円/人	115,097	94,416	97,048	↑	○	職員1人当たりの生産性を表している。
3008	給水収益に対する職員給与費の割合	%	9.0	10.3	9.0	↓	○	給水収益に対する職員の人件費の割合を示し、事業の収益性を表している。
3009	給水収益に対する企業債利息の割合	%	4.7	3.8	3.3	↓	△	給水収益に対する企業債利息の割合を示し、事業の収益性を表している。
3010	給水収益に対する減価償却費の割合	%	16.3	30.5	24.5	↓	○	給水収益に対する減価償却費の割合を示し、事業の収益性を表している。
3011	給水収益に対する企業債償還金の割合	%	10.2	10.3	8.3	↓	△	給水収益に対する企業債償還金の割合を示し、企業債償還金が経営に与える影響を表している。

## 業務指標の比較について

コード	項目	単位	門真市	類似団体 平均(府)	類似団体 平均(全国)	望ましい 方向性	評価	備考
3012	給水収益に対する企業債残高の割合	%	174.9	152.7	111.2	↓	△	給水収益に対する企業債残高の割合を示し、企業債残高の規模と経営に与える影響を表している。
3013	料金回収率（給水にかかる費用のうち水道料金で回収する割合）	%	120.9	104.6	99.4	↑	○	給水に係る費用が料金収入でどの程度賄われているかを示し、事業の健全性を表している。
3014	供給単価	円/m <sup>3</sup>	186.9	169.9	161.8	↓	○	有収水量1m <sup>3</sup> 当たりについて、どれだけの収益を得ているかを表している。
3015	給水原価	円/m <sup>3</sup>	154.5	164.0	162.6	↓	○	有収水量1m <sup>3</sup> 当たりについて、どれだけの費用がかかっているかを表している。
3016	1ヶ月当たり家庭用料金（10m <sup>3</sup> ）	円	1,040	1,163	1,917	↓	○	標準的な家庭における水使用量（10m <sup>3</sup> ）に対する料金を示し、消費者の経済的負担を表している。
3017	1ヶ月当たり家庭用料金（20m <sup>3</sup> ）	円	2,780	2,846	3,367	↓	○	標準的な家庭における水使用量（20m <sup>3</sup> ）に対する料金を示し、消費者の経済的負担を表している。
3018	有収率	%	93.9	94.4	93.9	↑	○	年間給水量に対し、収益につながった給水量の割合を表している。
3019	施設利用率	%	54.9	63.7	68.9	-	△	水道施設の稼働状態を判断する指標で、効率性を表している。
3020	施設最大稼働率	%	62.3	73.9	77.7	-	△	水道施設の稼働状態を判断する指標で、効率性を表している。
3021	負荷率	%	88.1	86.8	88.7	-	○	水道施設の稼働状態を判断する指標で、効率性を表している。
3022	流動比率	%	389.5	409.1	856.4	↑	○	流動負債に対する流動資産の割合を示し、1年以内の短期債務に対する支払能力を表している。
3023	自己資本構成比率	%	58.7	60.2	84.0	↑	○	総資本（負債および資本）に占める自己資本の割合を示し、財務の健全性を表している。
3024	固定比率	%	125.9	148.6	101.3	↓	△	自己資本がどの程度固定資産に投下されているかを表している。
3025	企業債償還元金対減価償却費比率	%	62.5	37.5	34.1	↓	△	投下資本の回収と再投資のバランスを表している。
3026	固定資産回転率	回	0.27	1.08	0.16	↑	△	固定資産に対する営業収益の割合を示し、期間中に固定資産の何倍の営業収益があったかを表している。
3027	固定資産使用効率	m <sup>3</sup> /10,000円	14.60	8.70	9.60	↑	○	有効固定資産に対する年間総給水量の割合を示し、施設の効率性を表している。
3101	職員資格取得度	件/人	4.07	2.49	0.56	↑	○	職員の法定資格数を表している。
3102	民間資格取得度	件/人	0.5357	0.0994	—	↑	○	職員の民間資格数を表している。
3103	外部研修時間	時間	16.1	47.3	—	↑	△	職員の資質向上のため実施された外部研修時間数を表している。
3104	内部研修時間	時間	11.5	18.8	—	↑	△	職員の資質向上のため実施された内部研修時間数を表している。
3105	技術職員率	%	50.0	47.4	47.8	↑	○	水道事業に携わる職員の技術職員の割合を表している。
3106	水道業務経験年数度	年/人	13.5	14.9	13.0	↑	○	全職員の水道事業経験年数の割合を表している。

## 業務指標の比較について

コード	項目	単位	門真市	類似団体 平均(府)	類似団体 平均(全国)	望ましい 方向性	評価	備 考
3107	技術開発職員率	%	0.00	0.00	—	↑	—	水道技術開発に対する人的投資の割合を表している。
3108	技術開発費率	%	0.00	0.00	—	↑	—	水道技術開発に対する投資費用の割合を表している。
3109	職員一人当たり配水量	m <sup>3</sup> /人	515,000	479,715	536,103	↑	○	職員一人当たりの効率性を表している。
3110	職員一人当たりメータ数	個/人	1,814	1,848	1,910	↑	○	職員一人当たりの効率性を表している。
3111	公傷率	%	0.000	0.060	—	↓ ○	○	水道事業における安全衛生管理状況を表している。
3112	直接飲用率	%	0.0	24.4	—	↑	×	アンケートでの「水道水を直接飲む」と言う回答結果の割合を表している。
3201	水道事業に係る情報の提供度	部/件	0.0	3.3	—	↑	×	水道事業の広報活動状況を表している。
3202	モニタ割合	人/1,000人	0.000	0.079	—	↑	×	消費者との双方向コミュニケーションを推進している割合を表している。
3203	アンケート情報収集割合	人/1,000人	0.00	2.70	—	↑	×	消費者のニーズの収集実行度を表している。
3204	水道施設見学者割合	人/1,000人	0.0	5.3	—	↑	×	消費者との双方向コミュニケーションを推進している割合を表している。
3205	水道サービスに対する苦情割合	件/1,000件	0.00	0.15	—	↓	○	消費者からの苦情の割合を表している。
3206	水質に対する苦情割合	件/1,000件	0.36	0.28	—	↓	○	消費者からの苦情の割合を表している。
3207	水道料金に対する苦情割合	件/1,000件	0.080	0.163	—	↓	△	消費者からの苦情の割合を表している。
3208	監査請求数	件	0	0	—	↓	○	法令に基づく監査請求の件数を表している。
3209	情報開示請求数	件	3.0	0.6	—	-	○	法令に基づく情報開示請求の件数を表している。
3210	職員一人当たり受付件数	件/人	420	384	—	-	○	職員一人当たりの効率性を表している。
4001	配水量1m <sup>3</sup> 当たり電力消費量	kWh/m <sup>3</sup>	0.06	0.26	0.24	↓	○	環境保全への取組状況を表している。
4002	配水量1m <sup>3</sup> 当たり消費エネルギー	MJ/m <sup>3</sup>	0.20	1.08	0.89	↓	○	環境保全への取組状況を表している。
4003	再生可能エネルギー利用率	%	0.00	0.00	0.00	↑	×	電力使用量に対する太陽エネルギーなどの再生可能エネルギーの使用割合を表している。
4004	浄水発生土の有効利用率	%	—	20.0	28.6	↑	—	浄水過程における発生土の有効利用の割合を示し、環境保全への取組状況を表している。
4005	建設副産物のリサイクル率	%	100.0	80.9	67.0	↑	○	工事の際に発生する土砂などの有効利用の割合を示し、環境保全への取組状況を表している。
4006	配水量1m <sup>3</sup> 当たり二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量	g・CO <sub>2</sub> /m <sup>3</sup>	29	108	131	↓	○	地球温暖化に最も影響のある二酸化炭素排出量の状況を示し、環境保全への取組状況を表している。



## 業務指標の比較について

コード	項目	単位	門真市	類似団体 平均(府)	類似団体 平均(全国)	望ましい 方向性	評価	備 考
4101	地下水率	%	—	19.3	86.3	-	—	地下水はコストが安く、安定しているので利用価値が大きい。しかし、過剰揚水は地盤沈下につながる。
5001	給水圧不適正率	%	0.0	0.1	—	↓	○	給水サービスの安定性を示すとともに、快適性、利便性を表している。
5002	配水池清掃実施率	%	222	190	—	↑	○	配水池の管理状況を表している。
5003	年間ポンプ平均稼働率	%	7.1	26.6	—	-	△	主要施設であるポンプの稼働状況を表している。
5004	検針誤り割合	件/1,000件	0.0	0.0	—	↓	○	水道メータ指針の読み間違いなど、検針に関する一切の誤りの割合を示し、水道メータの検針状況を表している。
5005	料金請求誤り割合	件/1,000件	0.1	0.0	—	↓	△	料金請求額の間違いなど、料金請求に関する一切の誤りの割合を示し、料金請求に関する状況を表している。
5006	料金未納率	%	10.8	8.8	—	↓	△	料金徴収に関する状況を表している。
5007	給水停止割合	件/1,000件	10.4	8.9	—	↓	△	料金未納による給水停止に関する状況を表している。
5008	検針委託率	%	100.0	100.9	—	-	○	水道メータ指針における外部委託状況を表している。
5009	浄水場第三者委託率	%	—	20.0	3.6	-	—	浄水場における第三者委託状況を表している。
5101	浄水場事故割合	10年間の件数/箇所	—	0.1	—	↓	—	必要とされる水量の一部でも送水出来なかった事故の割合を示し、給水サービスに対する信頼性を表している。
5102	ダクタイル鋳鉄管・鋼管率	%	98.7	77.4	70.2	↑	○	管路の母材強度に視点を当てた布設割合を示し、給水サービスの安定性を表している。
5103	管路の事故割合	件/100km	0.9	3.6	1.8	↓	○	給水サービスの安定性を示すとともに、管路の健全性を表している。
5104	鉄製管路の事故割合	件/100km	0.9	1.8	—	↓	○	給水サービスの安定性を示すとともに、管路の健全性を表している。
5105	非鉄製管路の事故割合	件/100km	—	11.6	—	↓	—	給水サービスの安定性を示すとともに、管路の健全性を表している。
5106	給水管の事故割合	件/1,000件	4.5	3.6	5.4	↓	○	給水サービスの安定性を示すとともに、給水管の健全性を表している。
5107	漏水率	%	1.0	2.9	2.4	↓	○	事業効率を示すもので、管網整備状況等を表している。
5108	給水件数当たり漏水量	m <sup>3</sup> /年/件	2.5	7.8	7.2	↓	○	給水管での漏水が多いことに視点を当てた指標である。
5109	断水・濁水時間	時間	0.08	1.53	0.10	↓	○	給水サービスの安定性を示すとともに快適性、利便性を表している。
5110	設備点検実施率	%	300	1,441	—	↑	△	法定点検回数に対する有資格者による総点検回数の割合を示し、管理の適正度を表している。
5111	管路点検率	%	38	29	—	↑	○	給水サービスの安定性を示すとともに、管路の健全性確保への取り組みを表している。
5112	バルブ設置密度	基/km	28.8	16.1	18.5	↑	○	配水操作の柔軟性や管路の維持管理の容易性を表している。

## 業務指標の比較について

コード	項目	単位	門真市	類似団体 平均(府)	類似団体 平均(全国)	望ましい 方向性	評価	備考
5113	消火栓点検率	%	0.0	50.5	—	↑	×	消火栓に対する年間の点検率を示し、消防水利に対する健全性確保の割合を表している。
5114	消火栓設置密度	基/km	7.2	4.7	3.9	↑	○	管路施設の消防能力、救命ライフラインの危機対応能力を表している。
5115	貯水槽水道指導率	%	0.2	42.4	0.0	↑	×	貯水槽に対する調査、指導の割合を示し、水質の安全性への取組状況を表している。
6001	国際技術等協力度	人・週	0	0	—	↑	—	技術協力のために海外へ滞在した職員の人数を示し、国際貢献の状況を表している。
6101	国際交流数	件	0	0	—	↑	—	海外との相互交流の件数を示し、国際貢献の状況を表している。

※・業務指標とは、(社)日本水道協会発行の「水道事業ガイドライン(JWWA Q100)」により、水道事業の全般業務について客観的な把握分析を可能とする指標であり、各事業体との比較分析、水準把握、お客様への説明責任、さらには事業経営分析に活用可能

- ・ 類似団体の定義 ; 人口100,000~150,000人、水源種別：受水、有収水量密度が全国平均以上
- ・ 類似団体の構成
  - 類似団体(府) ; 箕面市・大東市・松原市・富田林市・羽曳野市・泉佐野市・河内長野市
  - 類似団体(全国) ; 埼玉県(戸田市・入間市・鴻巣市・ふじみ野市・朝霞市・桶川北本水道企業団・富士見市・三郷市)
  - 千葉県(我孫子市)
  - 岐阜県(多治見市)
  - 愛知県(半田市・瀬戸市・刈谷市・東海市・小牧市)
  - 大阪府(箕面市・門真市・大東市・松原市・羽曳野市)
  - 兵庫県(三田市)
  - 奈良県(橿原市・生駒市)
  - 広島県(廿日市市)
  - 香川県(丸亀市)
  - 沖縄県(浦添市・うるま市・沖縄市)
- ・ 門真市及び類似団体(府)は、H26年度値
- ・ 類似団体平均(全国)は、H25年度値

参考資料②

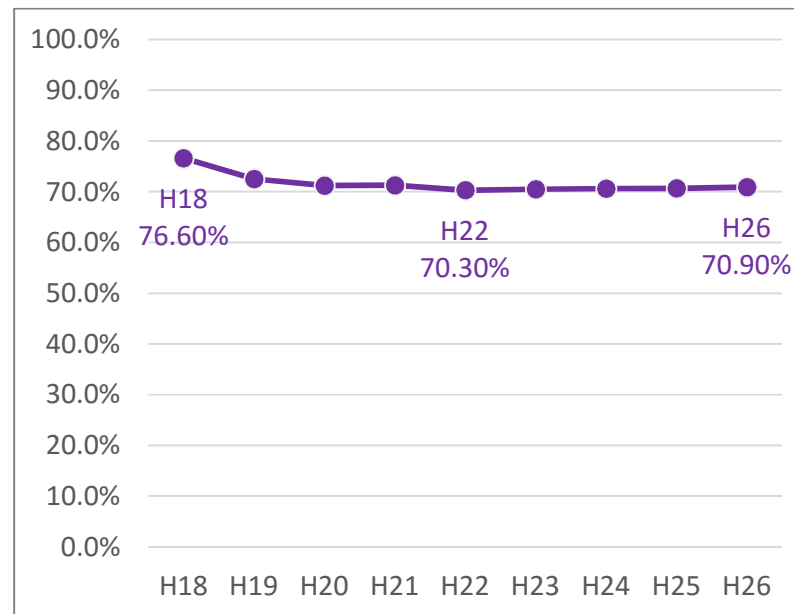
業務指標の推移

## 参考資料② - 1 〔1115 直結給水率〕

$$\text{直結給水率} = \text{直結給水件数} / \text{給水件数} \times 100 (\%)$$

直結給水率とは、配水管の水圧または直結加圧ポンプにより直接給水される給水件数の、その年度当初の給水件数総数に対する割合を表します。

年度	直結給水率
H18	76.6%
H19	72.5%
H20	71.2%
H21	71.3%
H22	70.3%
H23	70.5%
H24	70.6%
H25	70.7%
H26	70.9%

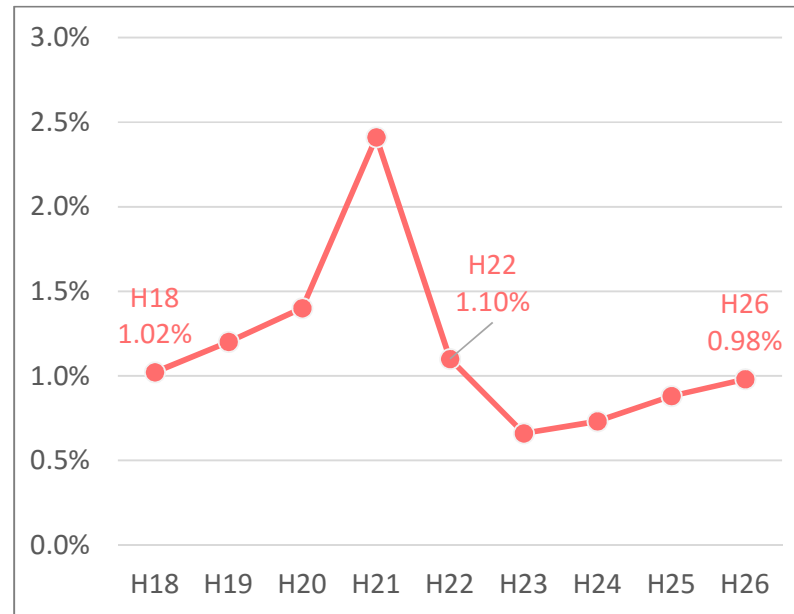


## 参考資料② - 2〔2104 管路の更新率〕

管路の更新率 = 更新された管路延長 / 管路総延長 × 100 (%)

管路の信頼性確保のため、1年間で更新された管路延長の割合を表しています。

年度	管路の更新率
H18	1.02%
H19	1.20%
H20	1.40%
H21	2.41%
H22	1.10%
H23	0.66%
H24	0.73%
H25	0.88%
H26	0.98%



## 参考資料② - 3 [5115 貯水槽水道指導率]

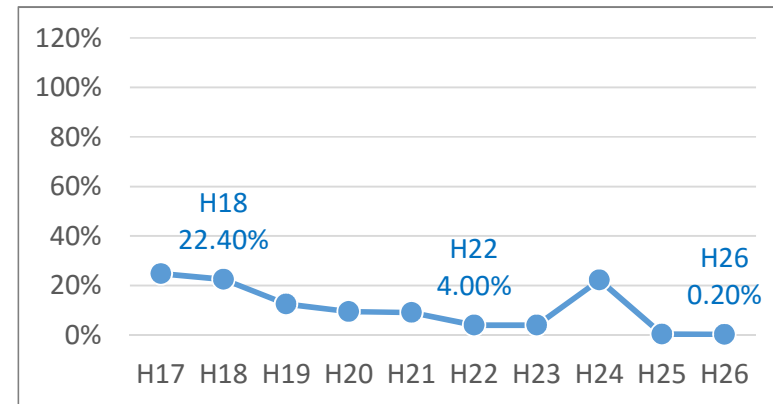
貯水槽水道指導率 = (貯水槽水道指導件数 / 貯水槽水道総数) × 100 (%)

貯水槽水道指導件数とは、年間の貯水槽水道に対して行った調査・指導の件数をいいます。

年間で複数回同じ貯水槽水道を対象にしている場合は、延べで数えます。指導等は、書面、口頭であることは問いません。

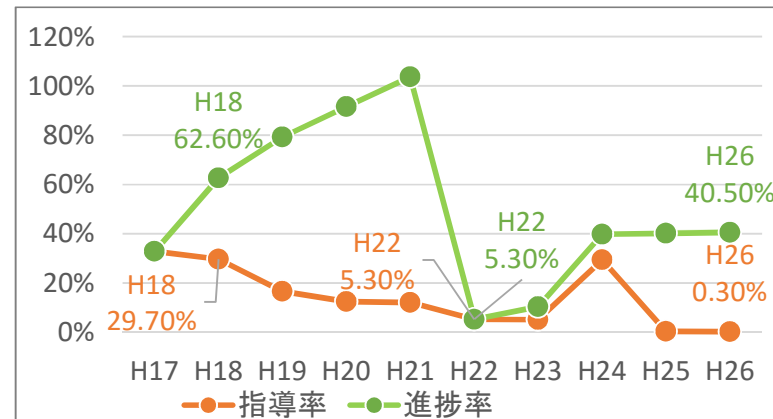
### PIにおける業務評価

年度	件数 (小規模のみ対象)	貯水槽設置数 (簡易専用水道含)	指導率 単年
H17	327件	1,319件	24.8%
H18	301件	1,343件	22.4%
H19	170件	1,357件	12.5%
H20	128件	1,364件	9.4%
H21	125件	1,369件	9.1%
H22	55件	1,363件	4.0%
H23	53件	1,362件	3.9%
H24	302件	1,358件	22.2%
H25	4件	1,358件	0.3%
H26	3件	1,363件	0.2%



### 小規模のみに着目した業務評価

年度	件数 (小規模のみ対象)	貯水槽設置数 (簡易専用水道除)	指導率 単年	進捗率
H17	327件	994件	32.9%	32.9%
H18	301件	1,012件	29.7%	62.6%
H19	170件	1,023件	16.6%	79.2%
H20	128件	1,030件	12.4%	91.6%
H21	125件	1,033件	12.1%	103.7%
H22	55件	1,030件	5.3%	5.3%
H23	53件	1,030件	5.1%	10.4%
H24	302件	1,027件	29.4%	39.8%
H25	4件	1,027件	0.4%	40.2%
H26	3件	1,028件	0.3%	40.5%



注) 進捗率はH17より計算

## 参考資料③ 貯水槽水道とは

## 貯水槽水道とは

「水道事業者の水道水を、いったん貯水槽に受けた後、建物の利用者に飲み水などとして給水する施設」のことです。  
貯水槽水道は、容量（大きさ）により「簡易専用水道」と「小規模貯水槽水道」とに分けられます。この2つは、次のような違いがあります。

	簡易専用水道	小規模貯水槽水道
定義	貯水槽水道のうち、水道事業者の水道水を受け貯水槽の有効容量が10m <sup>3</sup> を超えるもの。	左記以外の貯水槽水道 (貯水槽の有効容量が10m <sup>3</sup> 以下のもの。)
管理等の実施 根拠	<ul style="list-style-type: none"> <li>水道法第34条の2</li> <li>水道法施行規則第55条、第56条</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>門真市小規模貯水槽水道指導要領 (環境対策課)</li> <li>門真市水道条例(上下水道局)</li> </ul>
貯水槽管理 責任者及び義務	設置者の義務 (しなければならない)	設置者の努力義務 (するように努めなければならない)
検査受検 報告義務	有り	無し
権限、事務の所管 (主)	門真市市民生活部環境対策課 (水道局は、水道事業者として 関与できる。)	門真市市民生活部環境対策課 (水道局は、水道事業者として 関与できる。)

※有効容量 …… 貯水槽において適正に利用可能な容量をいい、貯水槽の最高水位と最低水位との間に蓄えられる水の量をいう。



## 参考資料④ 管路耐震化率の詳細

## 管路耐震化率の現状(平成26年度)

### 管路区分け

区 分	延長 (km)	割合 (%)
重要管路	18.9	8.4%
一般管路	206.7	91.6%
計	225.6	100.0%

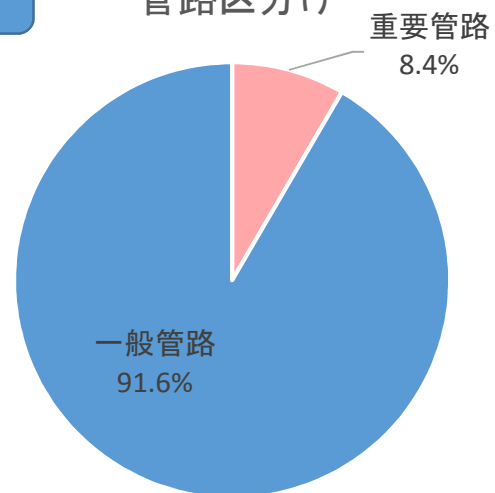
注) 重要管路; φ350以上

### 耐震化率

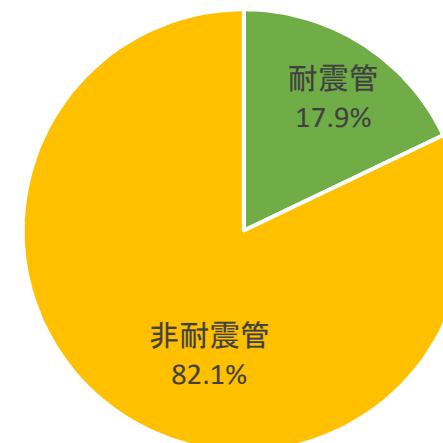
	区分	延長 (km)	割合 (%)
重要管路	耐震管	8.3	43.9%
	非耐震管	10.6	56.1%
	計	18.9	100.0%
一般管路	耐震管	32.3	15.6%
	非耐震管	174.4	84.4%
	計	206.7	100.0%
全 体	耐震管	40.6	17.9%
	非耐震管	185.0	82.1%
	計	225.6	100.0%

注) 重要管路; φ350以上

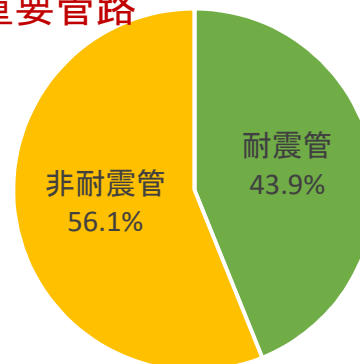
### 管路区分け



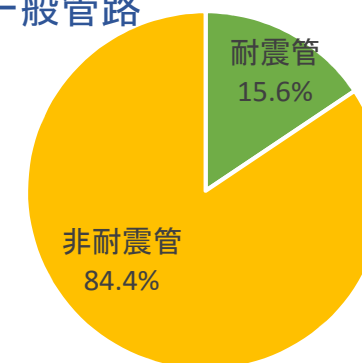
### 全 体



### 重要管路



### 一般管路



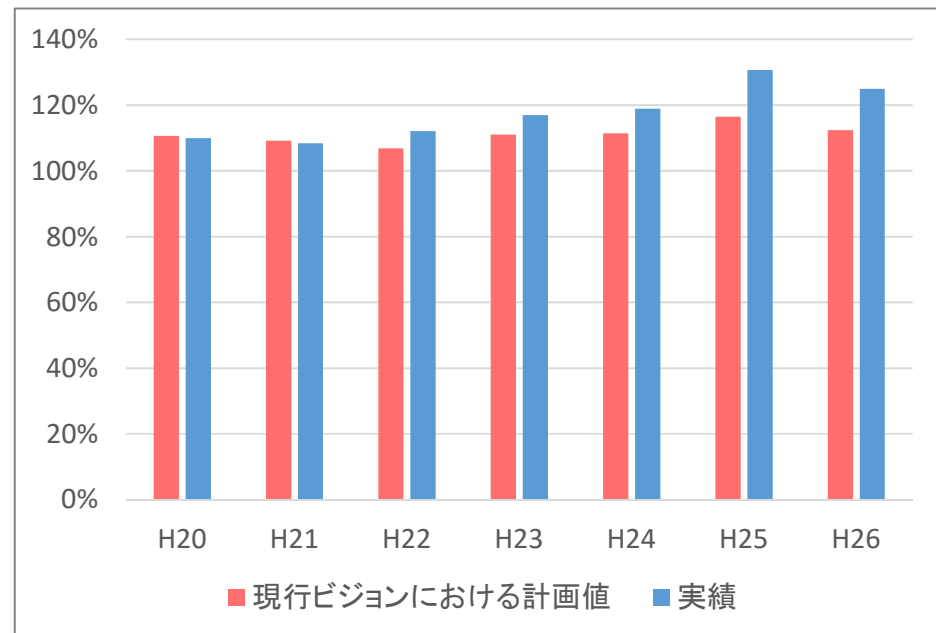
## 参考資料⑤ 経営指標の推移

参考資料⑤-1〔3002 経常収支比率〕

$$\text{経常収支比率} = (\text{営業収益} + \text{営業外収益}) / (\text{営業費用} + \text{営業外費用}) \times 100 (\%)$$

経常収支比率とは、経常収益（営業収益 + 営業外収益）の経常費用（営業費用 + 営業外費用）に対する割合を示し、100%以上であることが望ましいです。

年度	現行ビジョンにおける計画値	実績
H20	110.6%	110.0%
H21	109.1%	108.3%
H22	106.8%	112.1%
H23	111.0%	116.9%
H24	111.4%	118.9%
H25	116.5%	130.7%
H26	112.4%	124.9%

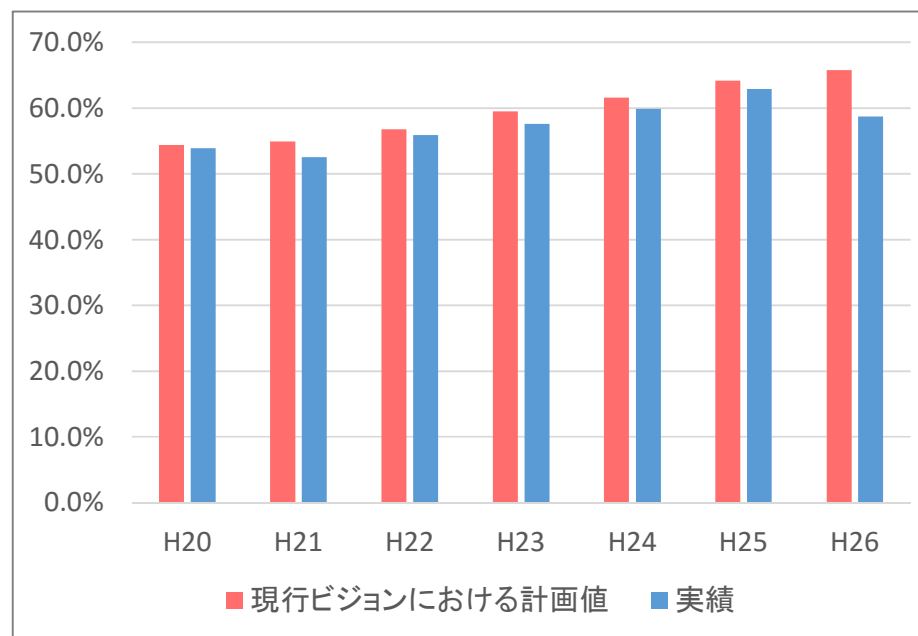


## 参考資料⑤ - 2 [3023 自己資本構成比率]

$$\text{自己資本構成比率} = (\text{自己資本金} + \text{剰余金}) / (\text{負債} \cdot \text{資本合計}) \times 100 (\%)$$

自己資本構成比率は、総資本（負債及び資本）に占める自己資本の割合を示し、財務の健全性を表しています。  
この値は高い方が財務的に安全と言えます。

年度	現行ビジョンにおける計画値	実績
H20	54.4%	53.9%
H21	54.9%	52.5%
H22	56.8%	55.9%
H23	59.5%	57.6%
H24	61.6%	59.9%
H25	64.2%	62.9%
H26	65.8%	58.7%



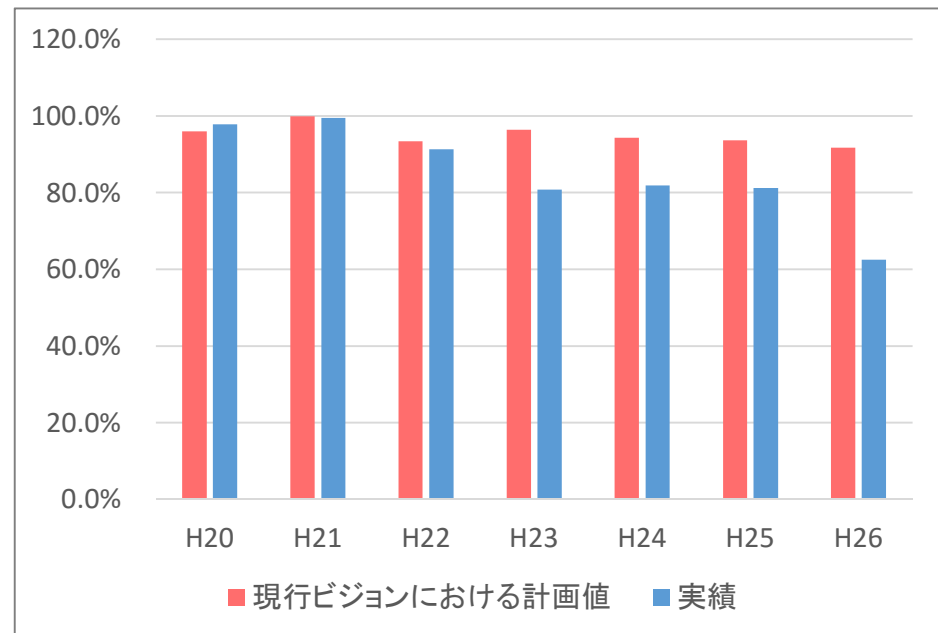
参考資料⑤ - 3 [3025 企業償還金対減価償却費率]

$$\text{企業償還金対減価償却費率} = \text{企業償還元金} / \text{当年度減価償却費} \times 100 (\%)$$

企業償還金対減価償却費率とは、企業償還元金の当年度減価償却費に対する割合を示し、投下資本の回収と再投資のバランスを表しています。

一般的にこの指標が100%を超えると再投資を行うに当たって企業債等の外部資本に頼ることになるため、100%以下であると財務的に安全と言えます。

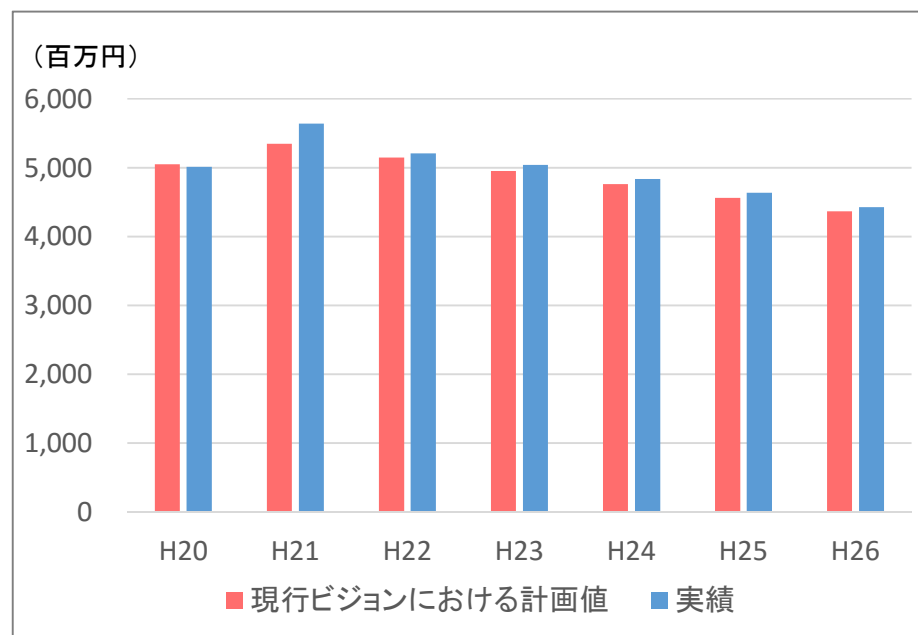
年度	現行ビジョンにおける計画値	実績
H20	96.0%	97.8%
H21	99.9%	99.5%
H22	93.4%	91.3%
H23	96.4%	80.8%
H24	94.3%	81.9%
H25	93.7%	81.2%
H26	91.7%	62.5%



## 参考資料⑤ - 4 〔企業債残高〕

企業債残高とは、当該年度における企業債の未償還元金の合計値のことです。  
この値は少ない方が財務的に健全と言えます。

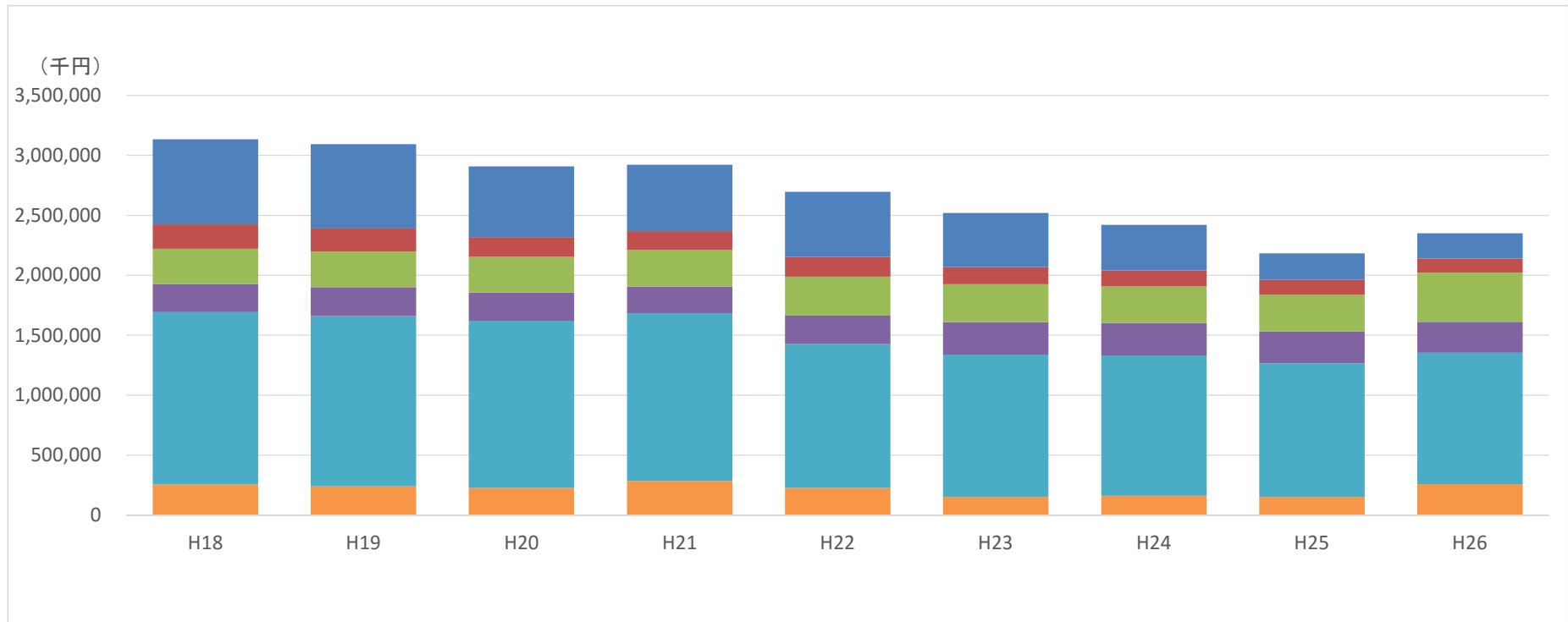
年度	現行ビジョンにおける計画値	実績
H20	5,049 百万円	5,011 百万円
H21	5,347 百万円	5,639 百万円
H22	5,149 百万円	5,204 百万円
H23	4,953 百万円	5,038 百万円
H24	4,760 百万円	4,836 百万円
H25	4,563 百万円	4,637 百万円
H26	4,367 百万円	4,429 百万円



## 参考資料⑥ 事業費用構成



## 事業費用構成



事業費用構成

科目 \ 年度	18		19		20		21		22		23		24		25		26	
	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
職員給与費	710,563	22.67	701,262	22.67	590,410	20.30	553,720	18.95	542,423	20.11	454,483	18.03	379,084	15.66	221,027	10.12	208,793	8.89
支払利息	204,008	6.51	192,077	6.21	163,897	5.63	158,093	5.41	166,541	6.18	140,202	5.56	133,432	5.51	125,784	5.76	117,846	5.02
減価償却費	291,936	9.31	298,539	9.65	297,758	10.24	303,523	10.39	322,766	11.97	317,236	12.59	306,750	12.67	307,310	14.08	412,101	17.54
委託料	234,137	7.47	240,457	7.77	234,373	8.06	223,193	7.64	238,499	8.84	269,492	10.69	270,460	11.17	263,219	12.06	256,775	10.93
受水費	1,437,641	45.86	1,420,014	45.91	1,395,539	47.98	1,397,794	47.84	1,200,339	44.51	1,187,175	47.10	1,168,978	48.30	1,112,531	50.96	1,096,297	46.66
その他	256,751	8.18	240,358	7.79	226,732	7.79	285,208	9.77	226,238	8.39	152,146	6.03	161,713	6.69	153,340	7.02	257,918	10.96
計	3,135,036	100.0	3,092,707	100.0	2,908,709	100.0	2,921,531	100.0	2,696,806	100.0	2,520,734	100.0	2,420,417	100.0	2,183,211	100.0	2,349,730	100.0